



第9号

発行日 平成27年10月15日  
発行 関屋小学校地区コミュニティ協議会  
編集 同総務部会  
協力 新潟市立関屋中学校  
同校地域教育コーディネーター  
新潟市関屋地区公民館

# せきやの灯

ここに—このん

## 盆おどり大会 8月23日(日)



8月23日(日)夜6時半から関屋小学校々庭で盆おどり大会が開かれ、華やかな櫓の周りに200人を超す人々が集い、盆おどりの楽しい一夜を過ごした。盆おどりの前、午後3時ころから校庭脇の路上で、輪投げや射的などのゲーム・コーナーと綿あめ、氷水、焼きトモロコシなどの露天が立ち並び、大勢の人で賑わった。

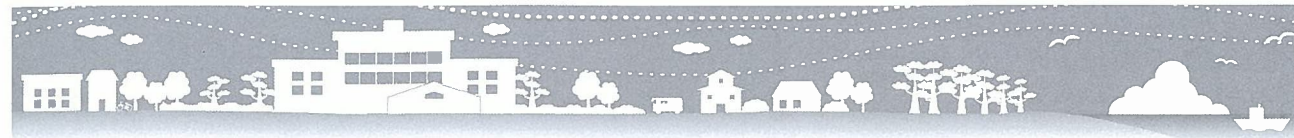
心配された雨も降ることなく、ここ関屋小学校々庭で開かれた盆おどりが大盛況のうちに無事終えることができました。当コミ協では、このイベントは私ども関屋地区コミ協にとっては初めての試みであり、はたして大勢の人にお集まりいただけるのか不安の気持ちで一杯でした。しかし、ふたを開けてみると当日は老若男女あわせて200人を超す人々が来場され、お囃子にあわせて新潟甚句、佐渡おけさを踊る姿が見られました。この光景をみて、この踊りの関係者の一員として喜びを禁じえませんでした。このように行事を盛況裡に終えられたのも、この計画に賛同してその遂行にお力添えくださった関係各位、またこの会場近くにお住まいの皆さま、特に関屋ハイイツの皆さまには心から感謝いたします。またこのイベントのために快く校庭、集会場などをお貸しく

**200余超の人々の踊りの輪**  
しかし、ふたを開けてみると当日は老若男女あわせて200人を超す人々が来場され、お囃子にあわせて新潟甚句、佐渡おけさを踊る姿が見られました。この光景をみて、この踊りの関係者の一員として喜びを禁じえませんでした。

**当コミ協では初めての盆おどり**  
このイベントは私ども関屋地区コミ協にとっては初めての試みであり、はたして大勢の人にお集まりいただけるのか不安の気持ちで一杯でした。



暮れなぞむ午後6時半、華やかな櫓の上からコミ協会長若槻さんが開会あいさつをされた。  
[写真提供=青少年育成協会 米山健一さん]



## 漢詩を作ってみよう

### 「漢詩研究会」に入ろう

漢詩研究会 代表 祝健一郎

Q「漢詩」ってどんなものですか

A ルーツは中国です。漢詩が日本人の血となり肉となったことは遠く万葉時代にさかのぼることが出来ます。そして日本の文化人の教養は漢詩を離れて語る事ができないほど大きな比重を占めてきました。

漢詩は五字あるいは七字の四行の形式が一般的です。二十字あるいは二十八字の漢字による詩です。押韻、平仄などの一定のルールを守ってつくりまします。例として有名な五字の詩(五言絶句という)例としてを紹介します。

静夜思(李白・唐)  
牀前看月光  
疑是地上霜  
挙頭望山月  
低頭思故郷

ベットの前に差しこんでくる光を霜かと思ったが、月の光と気がつく。頭をあげて山上の月を眺めた。再び頭をたれて故郷のことを思うのであった。

Q「漢詩研究会」は、いつ頃から始まって、どんなことをしていますか

A もう24年になります。関屋公民館の歴史と共に歩み、関屋地区に「漢詩の灯」をともし続けてきました。その間、講師の先生も4人を数え会員も入れ替わっていますが大体10人くらいで推移しています。現在は月に2回集まり、(第2・4土曜日に各2時間くらい)各自の作品を発表して講師の指導をうけます。お互いに批評をします。

Qどんな人たちが会員になっていますか

A 年齢的には60代から90代の方が多いです。職業も色々です。食堂のご主人もいれば雑貨店の経営者、年金生活者な

ど。入会動機は様々ですが漢字のもつ意味の深さと韻律が相まって心に響くところに魅力を感じて入会する方が多いようです。特に知識が必要ということはありません。日本人であれば誰でも作れるようになります。とくに頭脳が柔軟な中学生なら進歩も早いでしょう。

Q研究会での成果を発表する場はありますか

A 毎年「全国ふるさと漢詩コンクール」や「漢学の里」等の主宰するコンクールに作品をだし入選する会員もいます。また数年に一度のペースで各人の作品を十篇以上ずつ載せる(合計百編以上になる)「抛紙集」という漢詩集を発刊します。次は第5号になります。

Qところで漢字ってどのくらいの数があるのですか

A およそ五万字あるといわれています。この数多い漢字が中国文化形成の根幹となり、朝鮮日本に伝



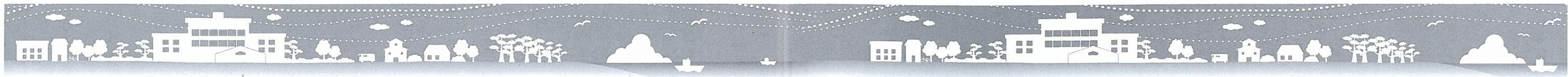
漢詩研究会 会員の皆さん ・後列(左から)上野、祝、浅野、渡邊  
・前列(左から)元井、張、寺田、保科 [撮影=2015年9月12日]

えられ国の正式文字として採用されそれぞれの文化を培養してきました。したがって漢字の知識を離れては過去の私たちの文化を知り得ないのもちろん将来の文化を語ることもできないと言えましょう。

Q関屋地区の皆さんにどんなメッセージを発信したいですか

A ぜひ研究会を気軽に見学していただき、漢詩の魅力を知ってもらいたい。とくに中学生や高校生の見学をお待ちしています。





さわやかに晴れた9月12日(土)午前9時10分から正午まで、関屋小学校体育館で210人のご参加をいただき、「敬老祝い会」が開催された。

75歳以上の方々86人に関屋小学校ふれあいスクールの17人が手作りの記念品をプレゼント、ますますのご健康と長寿をお祝いした。

# 明るく楽しくみな健やかに!!

## 関屋小学校区 敬老祝い会

てきたからくり機巧は今や40数個を超えているでしょう。

江戸時代に盛んになったからくり人形の手引書はいろいろありますが、手引書を読んだだけでは簡単に作れず、何年も何か月も要したのもあり、そこには「ひらめき」が求められるだけに完成したときの喜びは格別

定刻の9時10分、総合司会の福祉部会副部長・松川護さんの発声により、主催の関小コミ協会長・若槻晃一さんの開会あいさつ、来賓の関屋小学校校長・畠山典子さんの歓迎のあいさつ、続いて包括支援センターの事業説明があり、そのあと予定されたイベントが次々と披露された。

約10分間の休憩のあと、青陵大学ウインドアンサンブル25人のプラスチックバンドが登場、迫力満点・華麗な演奏で満員の聴衆を魅了した。

客席に一番近いところからからくり人形とその仕掛けが並べられ、その中央に人形師の日根さんとアシスタントの本間さんがお立ちになって予定した6演目の実演に入った。

実演の間に日根さんから、からくりの仕掛けやトリックの種明し、さらにはからくり人形の精巧かつユーモラスな動きなどについて、微に入り細に入り軽妙なお話を聞くことができた。

ひとつの演目が終わるたびに客席から驚嘆の声と賞讃の拍手が沸き上がり場内をゆらした。

精巧なからくりの世界... 驚嘆の声と賞讃の拍手

新潟市敬老祝会助成事業

### 祝敬老祝い会

主催 関屋小学校区ミニテイル協賛会  
共催 関屋地区社会福祉協議会  
関屋小学校子どもふれあいスクール

関屋小学校区  
9月12日(土)



人形の肩にもうひとりの人形が逆立ちする倒立人形



指示した通りに漢字「春」を書いた文字書き人形



からくり人形師 日根之和さん (73歳) アシスタント 本間佑一さん (72歳)

**日根さんのプロフィール**  
新潟大学理学部物理学科卒業  
県内公立高校に15年間勤務し、理科・数学を担当。続いて県立自然科学館に22年間、展示物の設置、保守、催しものや工作室の企画などを実施。平成15年3月に退職。

**【からくり人形の入賞歴】**  
・五段返り人形(復元) 平成6年 全国からくりコンテスト 銅賞  
・短剣投げ唐子人形(創作) 平成15年 ハンズ・フレッシュアイ賞  
・那須与一の剛刃(創作) 平成17年 世界からくりコンテスト 入選

### 人形師 日根さんのお話

わたしとからくり人形との付き合いは幼少のころからで、すでに半世紀の余を超えています。

わたし個人の趣味として30余年間作りつづけてきたからくり機巧は今や40数個を超えているでしょう。

江戸時代に盛んになったからくり人形の手引書はいろいろありますが、手引書を読んだだけでは簡単に作れず、何年も何か月も要したのもあり、そこには「ひらめき」が求められるだけに完成したときの喜びは格別

それらのすべてはわたし一人による手作りで、例えば人形の髪の毛一本本々に至るまで、それが今や生き甲斐となっております。

おり、作ることも楽しいが見ている人にも驚いていただけることも、もう一つの楽しみです。

明日を担う子どもたちには「モノ作り」の素晴らしさを知ってもらおうと

とともに、豊かな創造性を養ってもらいたいと存じます。

- (演目)
- 一、酒呑童子
  - 二、段返り人形
  - 三、短剣投げ唐子人形
  - 四、文字書き人形
  - 五、倒立童子
  - 六、乱杭渡り人形



青陵大学ウインドアンサンブルによる演奏「となりのトトロメロディ」と「ドラゴンナイト」の2曲



5段の階段を確実にバク転をしてみたりと着地をくり返していく段返り人形

つぎに関小ふれらんの児童17人がステージに勢揃いし、「さんぽ」と「うさぎとかめ」2曲を明るく元気な声で合唱、歌い終ってステージを下りたふれらんの児童が胸に造花のバラを付けた75歳以上の方々に手作りの「根付け」をお渡しして、高齢者との貴重なふれあいタイムとなりました。

最後に会場の全員で「うさぎとかめ」「星影のワルツ」の替え歌「星影のワルツ」を合奏し、とても楽しく愉快なフィナーレとなった。

正午、参加者全員にお昼のお弁当とお渡しし、関小コミ協副会長・渡辺晃さんの閉会のあいさつでおひらきとした。

### 会場で拾った感謝と感動 わたしの一言

**●新田有子さん** (関屋松波町二丁目)  
孫といっしょに初めて参加しました。「からくり人形」珍しいものを見せていただき、とても楽しかったわ。もう少し子どもたちとふれあう時間、例えばいっしょに見るとか、いっしょにおべんとうをいただくとか、時間があればいいなあと感じました。企画してくださった方々、ありがとうございました。

**●民生委員・主任児童委員 片桐 一さん** (関屋田町二丁目)  
参加してくださった高齢の女性から「とても楽しかったよ」と言われ、わたしは嬉しくなりました。こうした三世交代交流が地域の輪を強くすると感じました。

**●民生委員 鈴木清子さん** (関屋本村二丁目)  
会場の人達の心を捉えたからくり人形の実演が終ると、青陵大学生のプラスチックバンド演奏。生で聴く音の素晴らしさと、間近に見る楽器の大きさに驚かされました。

**●大竹ミドリさん** (学校町三・四区)  
天候にも恵まれて、友人と共に元気に参加しました。関小の子どもたちといっしょに歌ったり青陵の学生さんの演奏に合わせて小声で口ずさんだりと楽しいひとときでした。

会場でお友達になった人とは今後も連絡を取り合う約束も、来年も楽しみにしております。

**●社会福祉士 笹岡優奈さん** (新潟市地域包括支援センター)  
同じ地域に暮らす子どももからお年寄りまでが集まり交流できる、貴重な時間でした。若いパワーと長生きのパワーのどちらも感じて、元気をもらえるイベントですね。これからも続いてほしいと思います。



出張相談に応じている地域包括センター関屋・白新の職員の方々